

天平文化と国風文化 二（千字）

古代の日本には、時代ごとに特色のある文化が生まれた。奈良時代に栄えた天平文化と、平安時代の中ごろに栄えた国風文化は、どちらも都を中心に発達した文化である。

天平文化は、奈良に都があった奈良時代の文化である。このころ日本は遣唐使を送り、唐の進んだ制度や文化を学んでいた。天平文化は、遣唐使が持ち帰った唐の文化を手本にして栄えた。仏教の力で国を守ろうとした聖武天皇のもとで、都や各地に大陸風の寺が建てられた。代表的なものは、聖武天皇が建てた東大寺の大仏と、その宝物をおさめた正倉院である。では、だれがこの文化を担ったのか。天皇と貴族、そして僧である。聖武天皇は大仏を作る命令を出し、僧の行基は人々をまとめて大仏作りに協力した。鑑真は何度も失敗しながら唐から日本にわたり、正しい仏教の教えを伝えた。

正倉院には、聖武天皇が使った品々が、千年以上も前のまま残されている。正倉院は、東大寺の大仏殿の北に建つ、高床の木造の倉である。五本の弦を持つ琵琶には、ラクダに乗って楽器をひく人の絵がはめこまれている。白いガラスの器は、はるか西アジアで作られたものと考えられている。正倉院の宝物は、唐の都の長安を通って、海をこえて日本まで運ばれてきたのである。

同じことを、国風文化で見してみる。国風文化は、都が京都に移った平安時代の中ごろの文化である。このころ遣唐使は停止され、唐との行き来が減っていた。それまでに取り入れた唐の文化をもとにしながら、日本の風土や生活に合った、日本風の文化が育っていった。代表的なものは、漢字をくずして生まれたかな文字と、かな文字で書かれた文学である。国風文化を担ったのは、藤原氏をはじめとする貴族と、宮中に仕えた女性たちである。藤原氏は、むすめを天皇のきさきにして力をにぎり、はなやかな生活を送った。そのきさきに仕えた紫式部や清少納言は、かな文字を使って、宮中の生活や人々の心を書きあらわした。

源氏物語は、紫式部がかな文字で書いた長い物語である。主人公の光源氏という貴族を中心に、宮中の人々の恋や悲しみが、こまやかにえがかれている。漢字だけでは書き表しにくい、日本語の話言葉に近い言い回しや、心の細かな動きが、かな文字によって書けるようになった。漢字を学ぶ機会の少なかった女性たちが、かな文字を得て、多くの文学作品を生み出したのである。

こうして、唐との行き来がとどえる中で、外から入ってきたものが、時間をかけて日本のものに作りがえられていったのである。

課題一

この文章を二百十字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③

天平文化と国風文化 三（千字・硬い語彙）

古代の日本には、時代ごとに特色のある文化が生まれた。奈良時代に栄えた天平文化と、平安時代の中期に栄えた国風文化は、いずれも都を中心に発達した文化である。

天平文化は、奈良に都が置かれていた奈良時代の文化である。この時期、日本は遣唐使を派遣し、唐の先進的な制度や文化を学んでいた。天平文化は、遣唐使が持ち帰った唐の文化を規範として栄えた。仏教の力で国家を守護しようとした聖武天皇のもとで、都や各地に大陸風の寺院が建立された。代表的なものは、聖武天皇が建立した東大寺の大仏と、その宝物を収蔵した正倉院である。天平文化を担ったのは、天皇と貴族、そして僧である。聖武天皇は大仏建立の命令を発し、僧の行基は民衆を組織して大仏建立に協力した。鑑真は幾度も失敗を重ねながら唐から日本に渡航し、正統な仏教の教えを伝えた。

たとえば、正倉院には、聖武天皇が使用した品々が、千年以上前の姿のまま保存されている。正倉院は、東大寺の大仏殿の北に位置する、高床の木造の倉庫である。五本の弦を持つ琵琶には、ラクダに乗って楽器を奏でる人物の絵がはめこまれている。白いガラスの器は、はるか西アジアで製作されたものと考えられている。正倉院の宝物は、唐の都の長安を経由して、海を越えて日本まで運搬されてきたのである。

では、国風文化はどうかであろうか。国風文化は、都が京都に移った平安時代の中期の文化である。この時期、遣唐使は停止され、唐との往来が減少していた。それまでに摂取した唐の文化を基礎としながら、日本の風土や生活に適合した、日本風の文化が育っていった。代表的なものは、漢字をくずして生まれたかな文字と、かな文字で記された文学である。国風文化を担ったのは、藤原氏をはじめとする貴族と、宮中に仕えた女性たちである。藤原氏は、娘を天皇の后にして権力を掌握し、華やかな生活を送った。その後に仕えた紫式部や清少納言は、かな文字を用いて、宮中の生活や人々の心情を表現した。

たとえば、源氏物語は、紫式部がかな文字で記した長編の物語である。主人公の光源氏という貴族を中心に、宮中の人々の恋愛や悲哀が、繊細に描写されている。漢字のみでは表記しにくい、日本語の話し言葉に近い言い回しや、心情の微細な動きが、かな文字によって表現可能になった。漢字を学ぶ機会の少なかった女性たちが、かな文字を獲得して、多くの文学作品を生み出したのである。

この相違は、唐との往来が継続していたか否かに由来している。外部から流入したものが、時間をかけて日本固有のものに変容していったのである。

課題一

この文章を二百十字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③